

No. 37

インドネシア南東スラウェシ州
農業農村総合開発計画
長期派遣専門家総合報告書Ⅱ

平成9年2月

JICA LIBRARY



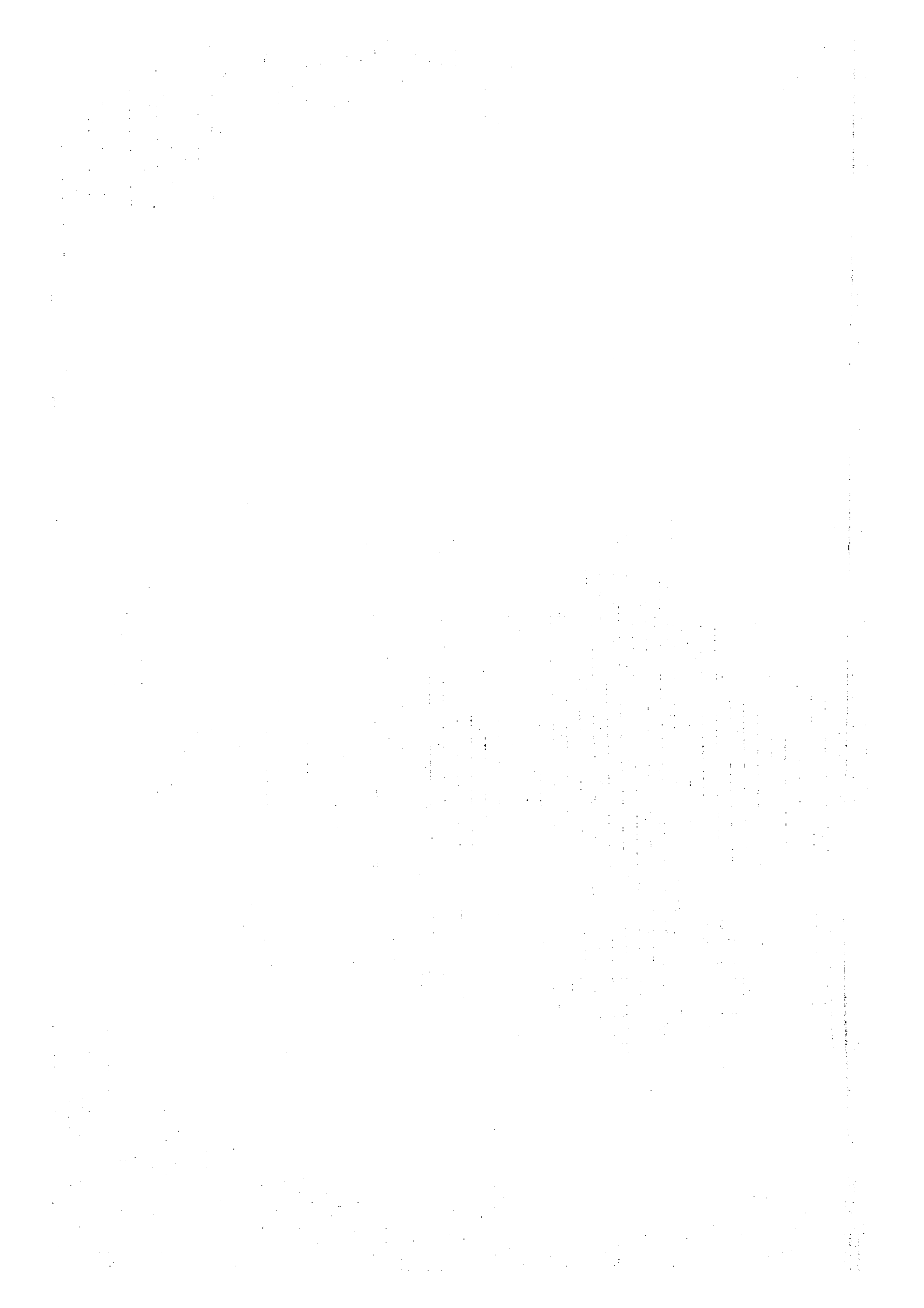
J1140367(2)

国際協力事業団

農開技

SC

974-87



インドネシア南東スラウェシ州

農業農村総合開発計画

長期派遣専門家総合報告書Ⅱ

平成9年2月

国際協力事業団



1140367 (2)

序 文

国際協力事業団は、インドネシア共和国実施機関との討議議事録（R/D）に基づき、南東スラウェシ州農業農村総合開発計画を、当初協力期間として平成3年3月1日から5ケ年間実施し、さらに、延長期間として平成8年3月1日から1ケ年間実施している。

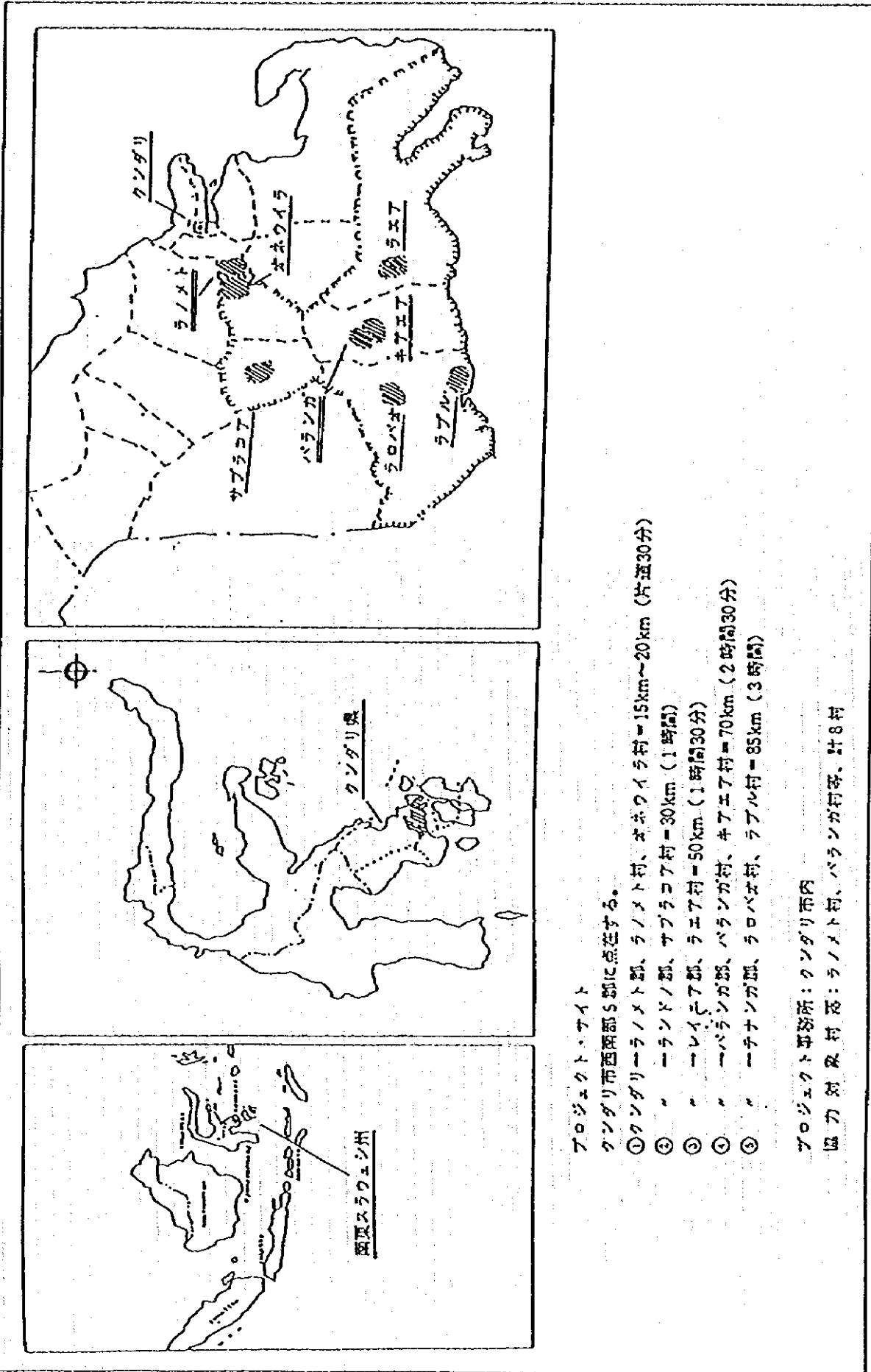
本報告書は、本プロジェクトの6ケ年の協力期間を平成9年2月に終了するに当たり、これまでの活動内容・成果、また、今後の課題と提言をとりまとめたもので、平成9年3月1日から1ケ年の予定で実施計画されているフォローアップ協力及びその後の「イ」側による類似プロジェクトの実施、並びに関連する農業・農村総合開発計画分野の国際協力の推進に活用されることを願うものです。

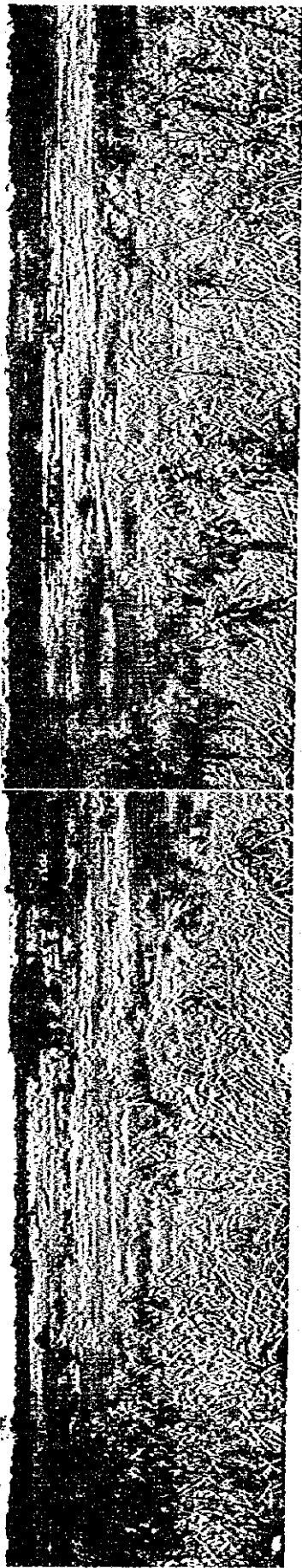
終わりに、これまで本プロジェクトの実施に当たり、ご協力とご支援をいただいた内外の関係各位に対し、心より感謝の意を表します。

平成9年2月28日

南東スラウェシ州農業農村総合開発計画
チームリーダー 萱野信毅

プロジェクト位置図

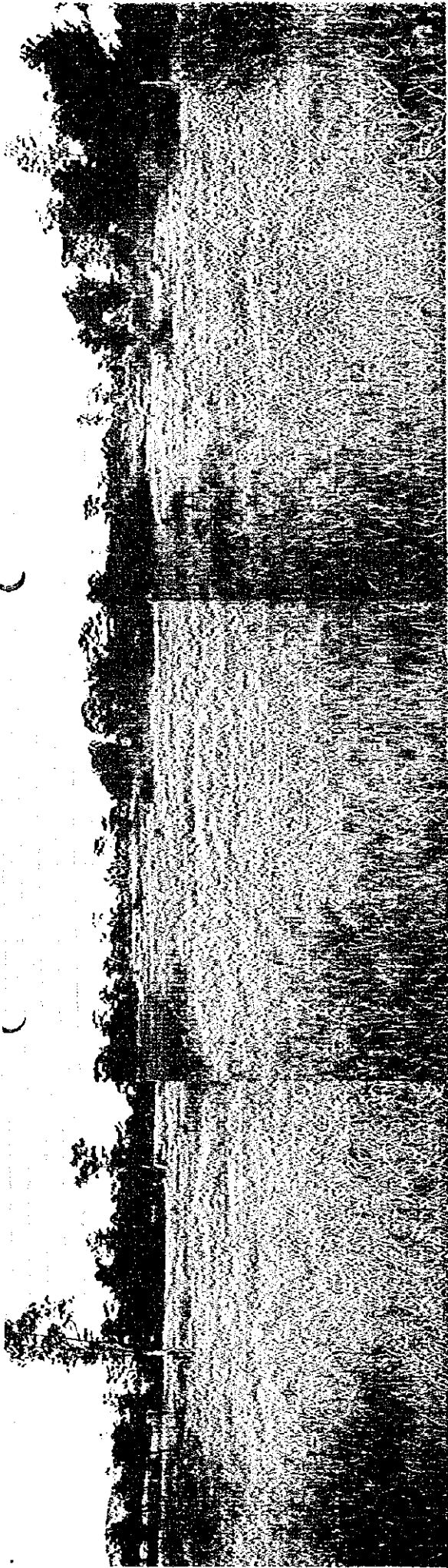




ラロハオ村プロジェクト/開発予定地の施工前全景 (1994年3月)



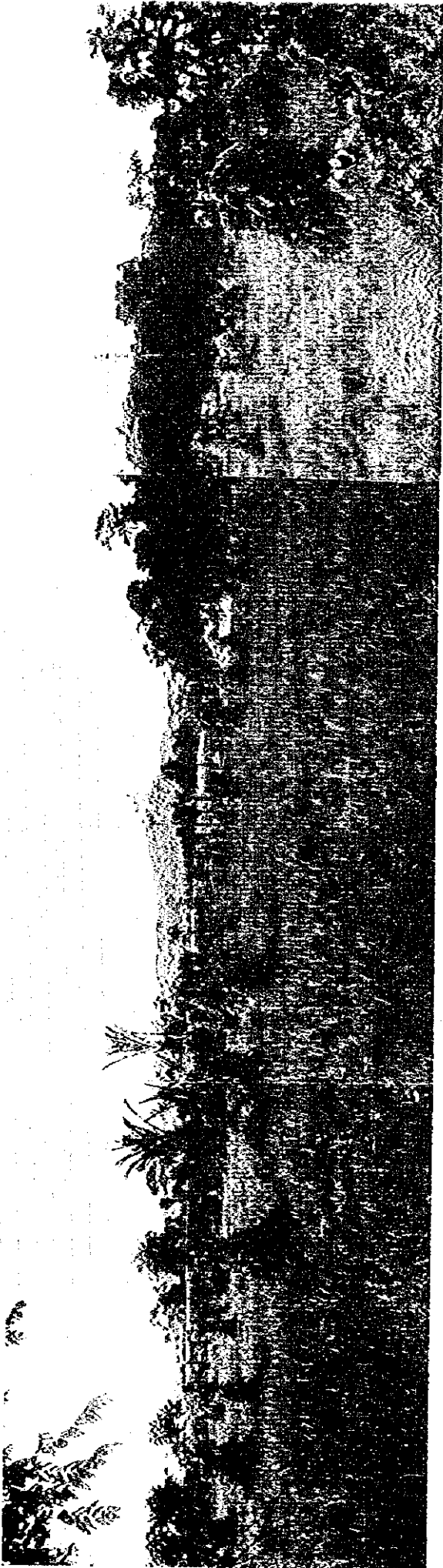
ラロハオ村プロジェクト/開発地の整備完成 (1995年12月)



サブライコブプロジェクト/水田予定地の施工前全景(1994年3月)



サブライコブプロジェクト/水田(△団地)整備完成(1997年2月)



オネウイラ村プロジェクト/水田整備予定地の施工前全景(1995年3月)



オネウイラ村プロジェクト/水田整備完成(1997年2月)

農業農村開発計画部門

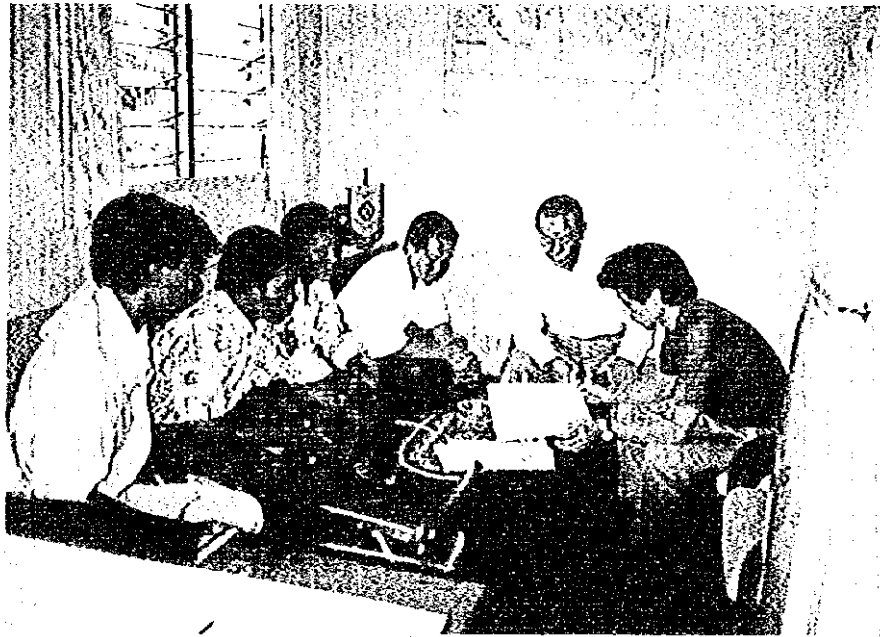


開発前、開発予定地での地元関係者との現場視察。

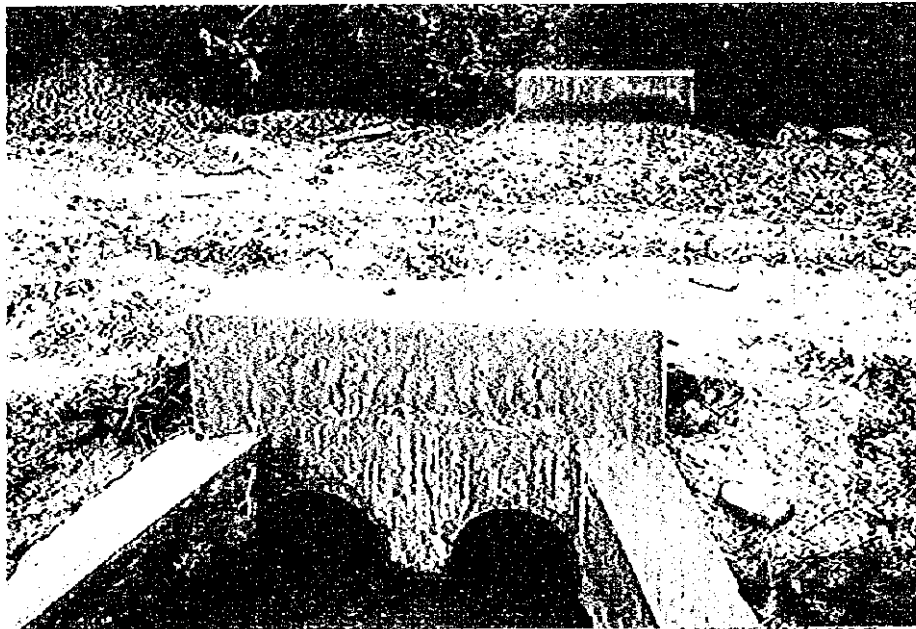


農業農村基盤整備工事实施前に、対象村で農民集会を開催し、
開発計画の概要説明を実施。
地元関係者の意向を尊重し、合意を得た上、工事を開始した。

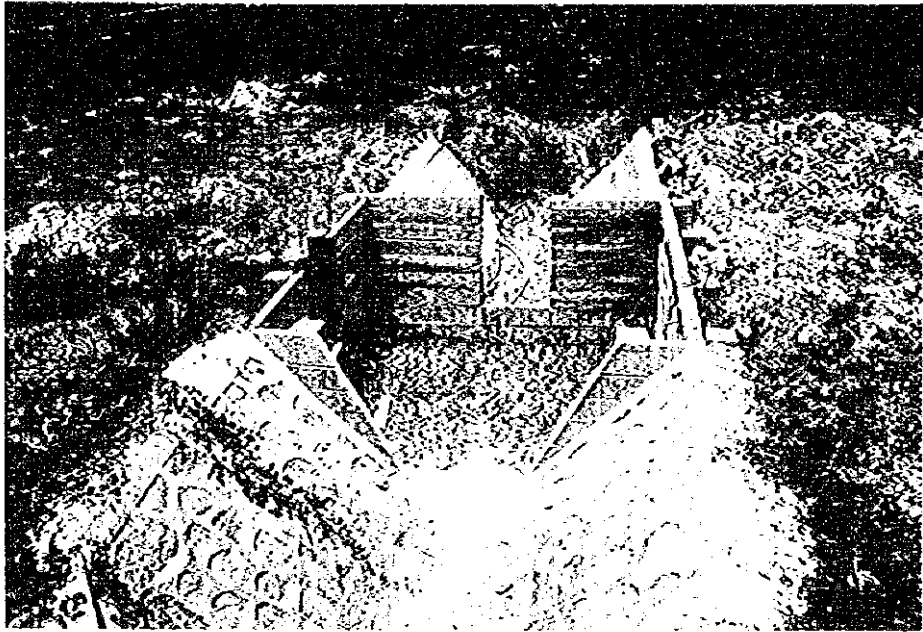
農業農村基盤整備部門



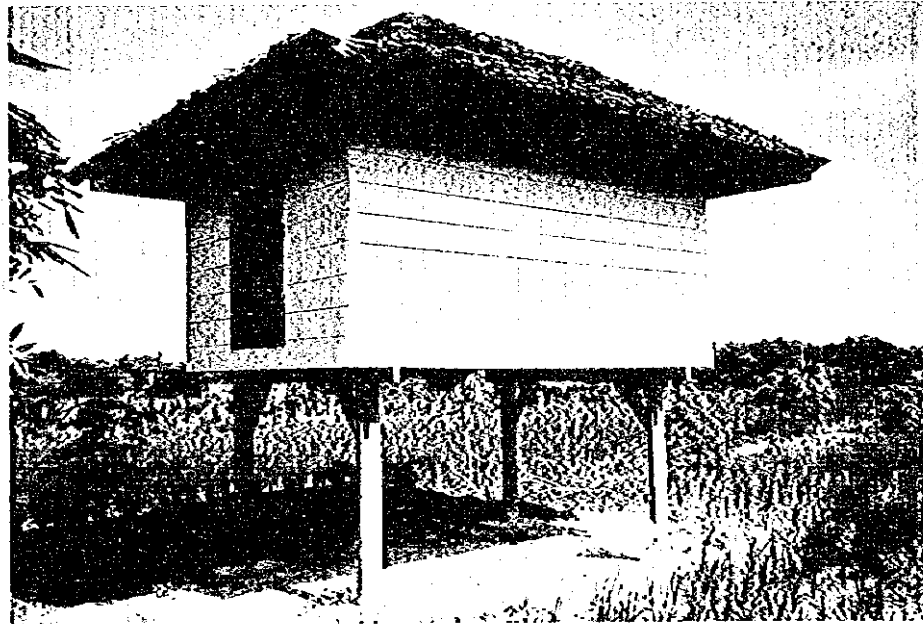
農業農村基盤整備工事の内、地元工事業者との請負工事に係る工事入札状況（於プロジェクト事務所）。



施工済、横断暗渠（ボックスカルバート）
コンクリート管に変更し、工事内容が容易になり、また、経費削減となった。

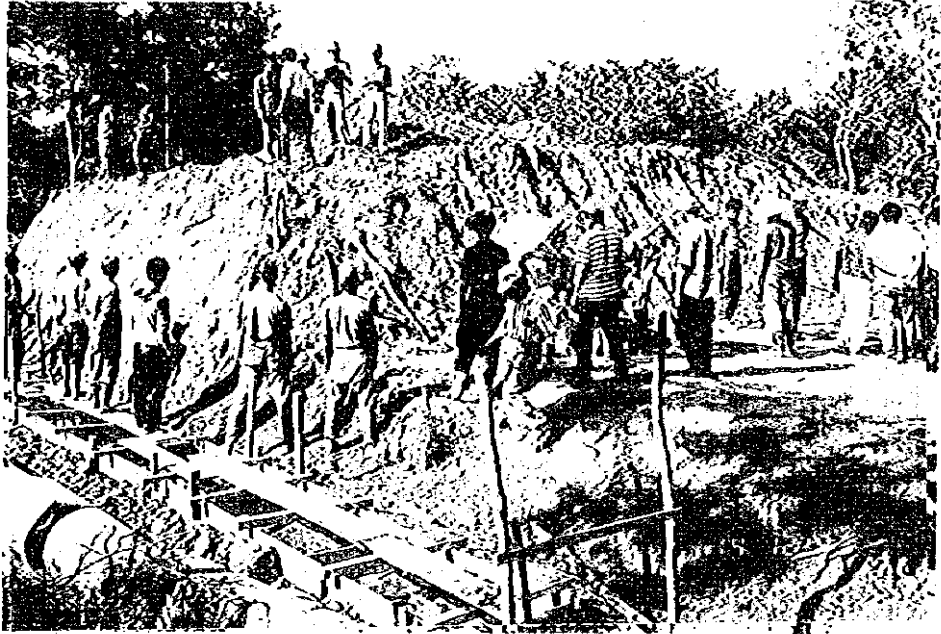


施工済モルタル練り石積みの分水工。
地元農民が容易に維持管理できるよう、地元で容易に入手し、
しかも安価に入手できる材料を使用した木製分水工。



施工済、種子貯蔵庫。
地元農民が容易に維持管理できるよう、地元で容易に入手し、
しかも安価に入手できる材料（壁材に木板、屋根材にヤシ葉を
使用）で施工。

施工管理部門写真



直営工事 スワダヤによるため池改修（キアエア村）



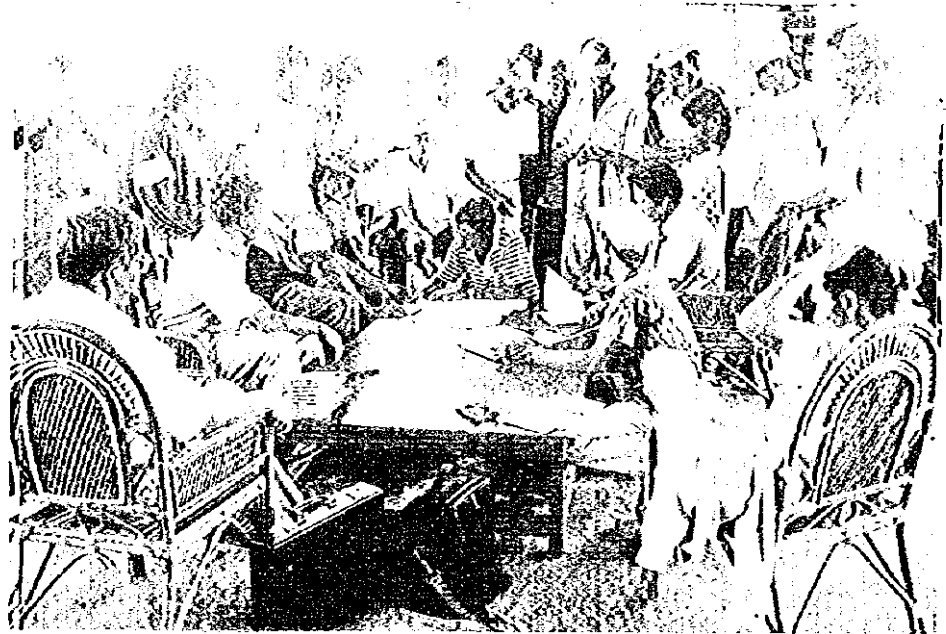
直営工事 スワダヤによるため池改修（キアエア村）



直営工事 重機による水田造成（サブラコア村）



農民グループ工事 用水路掘削（キアエア村）



農民グループ工事 用水路掘削工事労務費支払及びストックファンド
(サブラコア村)



請負工事 施工管理 (ラプル村堰堤スピールウェー)

機械操作維持管理部門



専門家の指導により、C/P、村の整備士、オペレーターによる、バックホー、摩耗による足回りの交換。
スプロケットアイドル、トラックリンク、アイドルは電気溶接により肉盛り再生された。



C/Pにより、村の整備士への四輪トラクターのエンジン、タイミング調整の指導。



C/Pにより、村のオペレーターへのハンドトラクターによる水田耕起指導。



C/Pにより、村のオペレーター、整備士への、ハンドトラクターのエンジン分解、組立指導。

営農指導部門



〔営農－1〕 ラロバオ村、1996年 1月

開田後、第一回目の苗代生育状況。トラキ族村で移植水稲栽培は初めての経験である。しかし、営農指導の効果により立派に生育中の苗代風景。



〔営農－2〕 ラエヤ村、 1996年 2月

トラキ族村の初めての定着耕作で陸稲を栽培中の風景と指導中の農業普及員。陸稲は水稲に負けない収量を期待する事が明らかとなった。